

平成 27 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	建築計画Ⅱ	担当教員	藤田大輔		
学年学科	4年 建築学科	通年	必修	2 単位 (学修)	
学習・教育目標	(D-4) 100%		JABEE 基準 1 (1) : (d)		
授業の目標と期待される効果： 近年における建築物は、単一の機能・役割を想定するだけでは不十分で、人間の行為や空間に対する嗜好評価を把握しつつ、弾力的かつ多様な機能を想定する必要がある。本授業では、建築計画の今日的役割と実際の設計との関わり、修得すべきキーワードの解説、および空間に対する人間の行動・意識・心理の調査方法について解説し、さらに自ら取り組むことができる演習を行う。以下の項目を目標とする。 ①建築計画に関わるキーワードとその内容を把握する ②建築計画におけるデザイン手法について把握する ③観察調査手法を理解し自らレポートすることができる ④意識評価手法を理解し自らレポートすることができる		成績評価の方法： 前期中間 100 点、前期期末 100 点、後期中間 100 点、後期期末 100 点、以上 4 試験・課題の総得点率 (%) によって成績評価を行なう。なお、成績評価に教室外学修の内容は含まれる。 達成度評価の基準： 教科書および講義で説明した内容について試験を課し、6 割以上の正答レベルまで達していること。さらにそれに関わる演習課題について 6 割程度理解していること。 ① 建築計画のキーワードに関する試験問題において 6 割以上正答できること ② 建築計画におけるデザイン手法に関する試験問題において 6 割以上正答できること ③ 観察調査手法を理解し適切にレポートできること (6 割以上) ④ 意識評価手法を理解し適切にレポートできること (6 割以上)			
授業の進め方とアドバイス： <ul style="list-style-type: none"> ・授業に出席し、各理論を理解することが学習の前提である。 ・スライド・板書を中心とするが、適宜作図やグループワークも取り入れた弾力的な授業形態とする。 ・理解を深めるため、スライドや図示した建築物・建築家に対し自ら積極的に調べ、学習すること。 					
教科書および参考書： 教科書：設計に活かす建築計画 (内藤和彦・橋本雅好・日色真帆・藤田大輔編 学芸出版社) 参考書：空間デザイン事典 (日本建築学会編 井上書院) / コンパクト建築設計資料集成 (日本建築学会編 丸善) / 建築・都市計画のための調査・分析方法 (日本建築学会編 井上書院)					
授業の概要と予定：前期		教室外学修		AL のレベル	
第 1 回：建築計画の役割と広がり (概論)	—				
第 2 回：パーソナルスペース・空間認知・中間領域	授業時に提示したキーワードを提唱した人物を調べる				
第 3 回：居場所・アクティビティ・シーケンス	ヘルツベルガー、ベンチャーリの著書について調べる				
第 4 回：歩行群衆・ユニバーサルデザイン	非常時の群衆制御、UD 7 原則を把握する				
第 5 回：デジタルデザイン・ワークショップ	デジタルとアナログデザインの差を理解する				
第 6 回：ファシリティマネジメント・転用再生	再生手法の 4 レベルの意義を理解する				
第 7 回：コンパクトシティ・コンテクスト	コンパクトシティ 9 原則を理解する				
第 8 回：中間試験	—				
第 9 回：調査の方法と概要	建築計画における調査の意義を理解する				
第 10 回：観察調査の方法 (家具・しつらい)	各方法について実際に用いられている研究等を調べ学習する				
第 11 回：観察調査の方法 (デザインサーヴェイ)					
第 12 回：観察調査の方法 (行動観察・動線)					
第 13 回：講評会 1	発表練習を事前に行う		A		
第 14 回：講評会 2			A		
第 15 回：講評会 3 (発表されたレポート内容を総括する)			A		
期末課題	—				
第 16 回：フォローアップ (課題を返却し解説および評価方法説明)	—				

授業の概要と予定：後期	教室外学修	ALのレベル
第17回：建築計画におけるデザイン手法の概説	—	
第18回：立てる・覆う・囲う		
第19回：積む・組む・刻む		
第20回：並べる・整える・区切る	授業で説明したキーワードについて、当てはまる建築作品を調べる	
第21回：混ぜる・つなぐ・対比させる		
第22回：変形させる・浮かす・透かす		
第23回：動きを与える・飾る・象徴させる		
第24回：中間試験	—	
第25回：意識評価の方法（アンケート調査）	アンケート調査の注意点について理解する	
第26回：意識評価の方法（KJ法・SD法）	各方法について実際に用いられている研究等を調べ学習する	
第27回：意識評価の方法（エレメント想起法）		
第28回：意識評価の方法（認知マップ）		
第29回：講評会1		A
第30回：講評会2	発表練習を事前に行う	A
第31回：講評会3（発表されたレポート内容を総括する）		A
期末課題	—	
第32回：フォローアップ（課題を返却し解説および評価方法説明）	—	

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 （優）	標準的な到達 レベルの目安 （良）	未到達 レベルの目安 （不可）
①	建築計画のキーワードに関する試験問題において8割以上正答できること	建築計画のキーワードに関する試験問題において6割以上正答できること	建築計画のキーワードに関する試験問題において正答できない
②	建築計画におけるデザイン手法に関する試験問題において8割以上正答できること	建築計画におけるデザイン手法に関する試験問題において6割以上正答できること	建築計画におけるデザイン手法に関する試験問題において正答できない
③	観察調査手法を理解し適切にレポートできること（8割以上）	観察調査手法を理解し適切にレポートできること（6割以上）	観察調査手法を理解し適切にレポートできない
④	意識評価手法を理解し適切にレポートできること（8割以上）	意識評価手法を理解し適切にレポートできること（6割以上）	意識評価手法を理解し適切にレポートできない